



元気っ子

No.263 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

6月に入って、今年も空梅雨かなあと感じていると、6月後半は台風も含め、連日の雨で梅雨らしい季節になりました。ただ、世界では相変わらず温暖化による異常気象が発生しており、フランスでは最高気温45度を記録するなど、各地で大きな被害が出ています。こういった環境破壊による地球温暖化は簡単に止められるものではないと思いますが、やはり一人一人が自覚をもって、小さなことでも、「出来ることからコツコツと」やっていく他ないのかなと思います。子どもたち、そしてその子どもたちに少しでも住みやすい地球を残すためにも我々大人が意識を持って取り組んでいかないといけないと思います。

さて、6月11日から3日間、全国私立保育園連盟の研究大会で熊本に行ってきました。私が参加した分科会は「世界から見た日本の幼児教育～これからの保育の質とは～」というテーマで、世界基準から見て、これからの日本の保育の質をいかに上げていくかということを考えてきました。

世界の、とりわけ北欧、ヨーロッパの保育はとても進んでおり、また全国から集まってきた私立保育園の中にはそういった質の高い保育に対してとてもアンテナを高くもっており、いち早くシステムを導入している園も見られ、とても刺激になりました。

キーワードになったのは2030年という時代です。つまり今から10年後ですが、今から10年前の2010年に今のようなスマートフォンが手放せない時代を誰も予測できていなかったように、2030年という時代もまさに予測不可能な時代がやってきます。そういった時代に向けて、我々保育者は知識、人間性といったものをどのように育てていくかを考えていかななくてはなりません。AI等の様々な技術が進化すれば、ただ知識を「暗記」してそれを再生することは重要ではなくなり、人が自主的に学ぶ姿勢や態度、そういったものの価値観といった「数値では測れない」ものが重要視されてくる時代になってくるのが予測されます。そういった時代を生きていく子どもたちに求められるチカラとは何か、またそのためにはどのような保育が必要となってくるのかを考えていくと、答えはやはり人のコミュニケーション能力、人との付き合い方など、そういった人間力こそが求められる時代になってくるだろうと思います。これからもこの人間力を伸ばしていけるような保育を心がけていかなくてはならないと感じました。

そして今回、研修中にご挨拶をさせて頂いた園さんとも積極的に情報共有、必要であれば職員を派遣して、どんどん良い部分はながさわ保育園にも導入していければと思います。

とても学ぶことの多かった熊本でしたが、勉強のあとはしっかりと美味しい馬刺しと熊本ラーメンに舌鼓をうち、高校野球好きにはたまらない熊本工OBの星子さんのお店「たちあっぷ」と今をときめくヤクルトは村上宗隆選手の母校、九州学院にも足を運んでおきました！

